

週替わりで一息!!

第2044回 (第55版)

今回の二十四節気・七十二候 (にじゅうしせつきしちじゅうにこう)

立秋(りっしゅう) 風のそよぎ、空の高さなどに、秋の気配を感じ始める一方で暑さはピークに達します。この日から季節の挨拶は暑中見舞から残暑見舞いとなります。 七十二候で楽しむ日本の暮らしより

次候「八月一・二日～八月一・六日」**寒蟬鳴 (ひぐらしなく) 38**
「ヒグラシが鳴き始める」夏の終わりを告げるかのように、ヒグラシが鳴いている頃。ヒグラシは日の出前や日没後によく鳴き、終わってしまう夏を惜んでいるかのように聞こえます。つづいて鳴くのはアブラゼミ、ツクツクボウシと蟬の声に季節の移ろいを感じます。

末候「八月一・七日～八月二・二日」**蒙霧升降 (もうむしょうご(ふかききりまとう)) 39**
「深い霧が立ち込める」視界が遮られるほどの深い煙の様な水滴が表れます。春の物は靄、秋の物は霧。朝夕のひんやりとした心地よい空気の中、深い霧が幻想的な風景をつくりだします。

20年前の主なニュース (1996年8月12日～8月18日福井新聞縮刷版より)

- ・「東北で地震頻発」宮城・栗駒で3回にわたって震度5を記録。
- ・「国立分離分割に一本化」一九九七年度の大学入試は九五大学すべてが募集人数を前期と後期に分けて試験をする。

「本日8月5日の金曜日」三国高校就職希望者模擬面接会《講評・意見交換会》職業奉仕委員会



■会員15人が3人ずつ4班に分かれ生徒1人あたり15分の面接担当した。面接官は生徒に志望動機や高校生活で頑張ったこと、最近心に残ったニュースなどを質問。8月8日福井新聞26面に掲載されました。■



職業奉仕委員会
委員長の挨拶

三国高校就職希望者21名の模擬面接実施後、講評を面接官が発表・学校側との意見交換も実施された。

第2650地区RLI
パート1修了証を。